

# PROFILE .....

## 勢井 宏 義

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部  
統合生理学分野



平成 19 年 1 月 1 日付で、森田雄介前教授の後任として、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部統合生理学分野(旧医学部第 2 生理学講座)教授を拝命しました。

私は徳島大学医学部卒業後、すぐに大学院へ入学し、以来今日まで第 2 生理学講座(統合生理学分野)の一員として歩んできました。きっかけとなったのが、医学部 3 年生の時に、先々代の故松本淳治教授の睡眠の講義に刺激され、級友と第 2 生理学講座で行なったヒトの睡眠ポリグラフ記録です。なぜヒトは眠るのか、なぜ夢を見るのか、そんな単純な疑問から「睡眠」を見てみたいと思ったのです。

学位研究として、睡眠期の循環調節から生理学の研究を始めたわけですが、香川医科大学(現香川大学医学部)の故細見弘先生、森田啓之先生(現岐阜大学教授)には、ネコの血流測定用の手術を手伝っていただきながら、循環生理について一から教わりました。細見先生の教室の雰囲気は、多くの学生をひきつける大変魅力ある研究室でした。その研究室のあり方は、細見先生、森田先生の研究スタイルや人格とともに、今でも私の目標です。また、その時代に、香川医科大学、産業医科大学、徳島大学、宮崎医科大学などから生理学教室の若手メンバーが集まって、親睦と研究向上を目的に「西日本生理系若手研究者の会」が結成されました。年に一度、「ウィンターセミナー」と称してスキー場のホテルに集まり、部屋の壁にスライド(今はパワポ)を映写しながら研究発表会をします。お酒も入って、辛辣で手厳しい(よく言えばフレンドリーな)質問やコメントが飛び

交い(特に森田先生や上田陽一先生(現産業医科大学教授)の指摘は鋭利で…)、いつも自分の弱点が露呈され気分的にかなり落ち込むのですが、とても勉強になります。その落ち込んだ気分を次の年には受けたくないという思いが、次の研究に向けての動機にもなっていました。もう、若手の会とは言いがたい集まりになっていますが、今も継続しています。

フランス・リヨンにクロード・ベルナル大学があります。私は、その大学にある、その名も「実験医学講座」(Michel Jouvet 教授)で留学を経験させていただきました。長年リヨンに滞在し、レム睡眠の神経発生機構の研究を続けておられる酒井一弥先生に、ワイヤー電極を用いたネコでの単一神経活動記録を教わりながら、セロトニン神経群がレム睡眠期に活動をまったく停止するのを見て、論文では知っていたものの、あまりに劇的で感動しました。このとき、教科書に残るような重要なデータとは、感動するほどのものなんだと初めて理解しました。

最近、栄養学科・武田英二教授をリーダーとする徳島大学 COE「ストレス制御をめざす栄養科学」に、研究担当者として参加させていただいています。そのため、栄養・代謝といった面からの生理学的 vivo 実験にも携わっており、「食」の重要性を再認識しています。国際的拠点への発展が期待されている COE として恥ずかしくない研究を進めていながら、感動できる生理学的知見を見出せればと思っています。また、私と違って、ウィンターセミナーでみんなを落ち込ませるぐらいの若い研究者もどんどん育てほしいと願っていま

す.

経歴

1984年 徳島大学医学部医学科卒業  
1988年 徳島大学大学院医学研究科修了, 徳島大学医学部助手  
1991年 フランス, クロード・ベルナル大学

(Michel Jouvet 教授) へ留学

1994年 徳島大学医学部講師  
2001年 徳島大学医学部助教授(2004年大学院ヘルスバイオサイエンス研究部に改組)  
2007年 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授